

2022年度 日本工学院専門学校											
I Tスペシャリスト科／システム専攻											
システム監査											
対象	3年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	30	単位	2
担当教員	煤孫統一郎			実務経験	無	職種					
担当教員紹介											
大手関連SI企業で20年間システムエンジニアとして勤務。プロジェクトリーダーとして要求分析から運用までを担当した実務経験を持つ。システム開発の現場で、大手流通企業を顧客としてEDIシステムの開発に従事した。システム開発以外に、研究開発の実務経験、教育部で社内研修開発とインストラクタとしての実務経験、販売推進部でサービス開発の実務経験も有する。情報処理学会会員。											
授業概要											
システムや組織、プロジェクトの継続的な運営をするにあたり、システム監査の概要について理解し、システム監査の中でも身近でありかつ重要なリスクマネジメントについて理解を深めシステム監査全体の理解の足掛かりとすることが学習の目的である。											
到達目標											
まずシステム監査の意義を理解し、監査の目的や対象領域について学ぶ。そして、リスクマネジメントについて実例を交えながら学習することにより、システム監査の全容とリスクマネジメントの理解を深めることを目標とする。											
授業方法											
先ず、システム監査の概要を把握し、その役割や目的把握する。次に、対象領域、監査基準、ITガバナンスとの関連、推進体制を理解する。さらに、この講義の中心となるリスクマネジメントの内容に移り、リスク分析、対応の決定、判断基準等を理解するために身近な例を取り、各自での演習と教員のフィードバックを実施する。終盤では論理思考の利用や企業の事例を交えた講義を行い全体のまとめとする。											
成績評価方法											
試験・課題 0% 小テスト 0% レポート 0% 成果発表 0% 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
この授業では、普段の授業態度や提出課題を重視する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。自分でも、情報を収集し、最新のICTシステムに関する動向について調べる。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
世界一わかりやすい リスクマネジメント集中講座 勝俣 良介著 オーム社											
回数	授業計画										
第1回	システム監査の意義 システム監査の必要性や役割、目的を理解する										
第2回	システム監査基準の改訂の歴史 システム監査の目的や対象領域、監査基準の変遷について理解する										
第3回	ITガバナンスについて ITガバナンスとシステム監査の関連について理解する										
第4回	システム監査の推進体制と手順 システム監査の推進体制と手順について理解する										
第5回	リスクアプローチ システム監査におけるリスクアプローチについて理解する										

2022年度 日本工学院専門学校	
I Tスペシャリスト科／システム専攻	
システム監査	
第6回	リスクマネジメントの概要 リスクマネジメントの全体像について理解する
第7回	身近な例でのリスクマネジメント 身近な例を通してリスクマネジメントの理解を深める
第8回	リスク分析演習 リスクマトリックスを用いたリスク分析ができる
第9回	リスクアセスメント・対応 リスクの優先度、対応の決定方法について理解する
第10回	企業のリスクマネジメント 企業におけるリスクマネジメントについて理解する
第11回	リスク分析の判断基準 リスク分析の判断基準について理解する
第12回	リスクの洗い出し リスクの洗い出しにおいてMECEや業務フローの活用について理解する
第13回	中小企業のリスクマネジメント 情報セキュリティリスク、環境リスク、ベースラインアプローチについて理解する
第14回	ERM ERM (Enterprise Risk Management) について理解する
第15回	大企業のリスクマネジメント 事例を交えながら大企業のリスクマネジメントについて理解する